

児童の思考力、判断力、表現力等を育む授業の在り方に関する研究

－各学校における全国学力・学習状況調査の分析に基づいた授業改善－

義務教育研修課 主任指導主事 大西ゆかり

指導主事 早瀬 幸二

はじめに

全国学力・学習状況調査（以下、「全国調査」という）は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、その改善を図ること」「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てること」を目的として実施されている¹⁾。また、その活用について、調査結果の分析・検証の結果から見られる課題を踏まえて授業の改善を行うことや、教職員の指導力の向上等を図るため、校内研修を適切に実施することなどが示されている²⁾。

当所では、平成23年度から児童の思考力、判断力、表現力等を育む授業の在り方に関する研究を行ってきた。平成23年度は、言語活動に関する教員の実施状況や意識を調査し、その結果を踏まえて、児童の思考力、判断力、表現力等の育成に向けた言語活動の効果的な取り入れ方について、社会科の単元展開例を提案し、具体的な視点を示した。平成24年度は、「ことばの力」の向上を図る観点から、「全国調査」における児童生徒の学力の全体的な成果と課題を踏まえ、思考力、判断力、表現力等を育むための授業改善の視点を示すとともに、国語科と算数科の指導例を提案した。

本研究では、2年間の研究成果を踏まえ、「全国調査」の分析方法の工夫や分析結果の校内授業研究への活用といった、各学校における「全国調査」の分析に基づいた授業改善の方策を提案し、当所とたつの市立御津小学校との協同研究（以下、「協同研究」という）を通してその有効性を検証する。

1 全国学力・学習状況調査を活用した授業改善の実態

(1) 全国学力・学習状況調査の活用

「全国調査」は、平成19年から実施されており、調査結果の分析・検証については、「教科ごとの数値データによる分析」「全体的な状況の把握・検証」「学習指導要領の領域や評価の観点、問題形式ごとの正答や無回答の状況の分析」「解答類型別の結果をもとにした個々の設問における誤答や無回答の状況の分析」「過去5回の調査結果の状況や独自の調査の結果等との比較分析」など、多面的な分析を行い、指導上の課題等を明らかにすることとされている³⁾。

ところが、当所で実施している研修講座の受講者等に「全国調査」の分析・検証の現状を聞いたところ、その多くが「国語は全国より〇%上回っている」といった教科ごとの正答率のみに着目したものや、「算数は数量関係が苦手」「選択式より記述式の問題が苦手」といった、領域や問題形式ごとの結果を漠然と捉えたものであり、解答類型別の結果などから誤答の原因や授業改善の具体的な方向性を考えるといった内容は少なかった。また、毎年、調査結果が公表される時期には、既に年度当初に設定した研究テーマで校内授業研究が実施されており、「全国調査」の結果を校内授業研究に反映させるのは難しいとの声も聞かれた。

調査結果の活用については、「各学校においては、調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、指導計画等に適切に反映させるなど、教育指導等の改善に向けて計画的に取り組むこと」⁴⁾とされている。その具体的な内容として「具体的な指導内容や指導方法の改善」「言語活動の充実や見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動の計画的な位置付け」「家庭における学習習慣や生活習慣の改善に向けた取組」「校内研修の実施や分析・検証結果の共有」「小・中学校における課題の共有、連携」が挙げられている⁵⁾。学校質問紙調査における

本県の結果からそれらの取組の状況を見ると、**表1**に示すように「よく行った」等「行った」等の割合を合わせた値は、どの項目も約9割を示しており、多くの学校で教育指導等の改善に向けた様々な取組が行われていることがわかる。しかし、「よく行った」

表1 教育指導等の改善に向けた取組（本県）⁶⁾

質 問 事 項	「よく行った」等	「行った」等
①平成24年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用した具体的な教育指導の改善等	14.1%	73.4%
②言語活動に重点を置いた指導計画の作成	37.0%	55.6%
③授業の冒頭に目標を示す活動の計画的な取入れ	38.9%	55.0%
④授業の最後に学習したことを振り返る活動の計画的な取入れ	27.6%	60.6%
⑤家庭での学習方法等の具体的な指導	29.4%	60.7%
⑥模擬授業や事例研究などの実践的な研修	70.2%	26.7%

※「よく行った」等には、「よくしている」を含む。
「行った」等には、「どちらかといえば、行った」「どちらかといえば、している」を含む

等の割合に着目すると、①が②～⑥に比べて低い値を示している。

②～⑤については、学習指導要領の改訂に伴い、多くの教員がこれらの取組を普段から意識していることが関係していると考ええる。

一方、模擬授業や事例研究などの実践的な研修が多くの学校で実施されている（表内⑥）ものの、「全国調査」の結果が校内授業研究に十分に活用されていない（表内①）ことが読み取れる。その原因として、前述の「全国調査」等の分析・検証が正答率のみに着目していることや、領域、問題形式ごとの結果を漠然と捉えていることが考えられる。

(2) 校内授業研究の現状

校内授業研究は、教員の授業力向上及び教員の協同性の向上等を目的として実施されている。平成25年度「全国調査」の学校質問紙調査によると、ほぼ全ての学校が年間1回以上の授業研究を伴う校内研修を実施しており、本県では96.9%の学校が、模擬授業や事例研究などの実践的な研修を行っている（表1）。

しかし、当所で実施している「校内研修マネジメント講座」の受講者（多くは研究主任、研修主任）に校内授業研究の現状を質問したところ、課題を感じているという声が多く聞かれた。その具体的な内容として、「研究授業で明らかになったことが日々の授業に生かされていない」「研究テーマが漠然としており、具体的に取り組むことが共通理解できていない」「研究授業後の授業研究会の協議が授業を見た感想にとどまっている」等が挙げられた。校内授業研究を行っているものの、学校として取り組む視点が明確になっていないため、授業改善に向けて研究授業や授業研究会を十分に活用できていない現状がうかがえる。

2 全国学力・学習状況調査を活用した授業改善の推進

「全国調査」の結果には、児童の思考力、判断力、表現力等の育成に向けた有効なデータが多く含まれており、それらを効果的に活用することで児童の実態に基づいた授業改善を行うことができる。しかし、前述の通り、「全国調査」の結果が校内授業研究に十分に活用されていないことや、研究授業や授業研究会が日々の授業改善に結びついていないことを課題として示した。また、言語活動の充実について具体的なイメージをもつことができていない教員がおり⁷⁾、思考力、判断力、表現力等の育成を校内授業研究のテーマに掲げていても、具体的な方向性の共通理解ができていないことも授業改善を推進する上での課題となっていると考えられる。

これらから、「全国調査」を活用した授業改善に向けた方策として**表2**に示す4点を挙げる。

まず、①思考力、判断力、表現力等や言語活動の充実について共通理解を図り、②「全国調査」の分析

表2 「全国調査」を活用した授業改善に向けた方策

- | |
|--|
| ①思考力、判断力、表現力等や言語活動の充実についての共通理解
②「全国調査」の分析方法の工夫
③分析結果の校内授業研究への活用
④授業研究会を日常の授業改善につなげる工夫 |
|--|

方法を工夫することで、児童の実態に応じた授業改善の視点を明確にする。そして、③分析結果から明らかになった授業改善の視点を校内授業研究に反映させるとともに、④授業研究会を日常の授業改善につなげられる内容に工夫することで、学校全体での授業改善に向けた取組につながると考える。

そこで、「協同研究」を通してこれらの4つの方策を実践し、その有効性を検証した。その実施に当たっては、同校の研究担当者と当所の指導主事が校内研修や研究授業、授業研究会の内容や進め方について協議し、上記の方策に沿って校内授業研究を通じた授業改善を図った。その内容を以下に示す。

(1) 思考力、判断力、表現力等や言語活動の充実についての共通理解

「協同研究」では、校内授業研究の実施に向け、思考力、判断力、表現力等を育むための言語活動の充実のさせ方について共通理解を図るための研修会を行った。最初に、思考力、判断力、表現力等が求められる背景や言語活動の目的、言語活動を行う際の留意点を確認した。その後、各教科等における具体的な言語活動の取り入れ方について演習を行った。ここでは、国語と算数を例に挙げ、国語は、「単元を貫く言語活動」の意義や位置付け方、算数は、見通しをもたせる場面や考えを深めさせる場面における言語活動の取り入れ方についての内容を扱った。

講義だけではなく演習を取り入れたことで、参加者自身が言語活動を体験し、その必要性や効果を感じることができた。また、教科等の特質を踏まえた指導について具体的な授業展開を例にしたことにより、それぞれの参加者にとって自分自身の授業を改善するための方向性を考える機会となった（表3）。

表3 研修会後の感想

- ・単元を通して見通しをもたせることがよくわかった。
- ・「何のために活動するのか」という目的意識をもたせておくことの必要性がわかった。
- ・「目的をもつ→振り返る→次の課題へ」というサイクルを教師も子どもも意識しておくことが大切だと思った。
- ・教材ごとに各学年で身に付けさせたい力を明確にしたい。
- ・単元を貫く言語活動の具体例を練りたい。
- ・年間カリキュラムの重要性を再認識した。

その後、それぞれの教員が国語科や算数科の授業に研修会で扱った内容を取り入れた。ここでは、研究授業として実施された算数科「たし算の筆算」（第3学年）の実践を紹介する。この授業は、百の位が繰り上がる3位数+3位数の計算のしかたを考えることをねらいとしており、見通しをもたせたり考えを深めさせたりするための手段として以下のような言語活動を取り入れた。

導入の場面では、 $724+635$ の和を見積りを使って予想させ、その答えについて話し合わせた。このことで、「今回は千の位に繰り上がるんじゃないかな」等、「千の位になる加法の解き方を考える」という本時の課題につながる意見が児童から出された。また、前時に学習した十の位が繰り上がる筆算の解き方を説明する活動を取り入れたことにより、本時の学習でも既習の考え方が活用できることを学級全体で確認することができた。考えを深め合う場面では、具体物（お金のモデル）を指さしたり動かしたりしながらペアや全体で説明する活動を取り入れた。このことにより、児童は、十進位取り記数法の仕組みや筆算の決まりを視覚的に確かめながら説明しあうことができた。このような活動を通して、学習のまとめでは、「どれだけ位が大きくても筆算の決まりや計算方法を活用できる」といった内容の振り返りが多く見られた。

研究授業後には、他の単元でも見通しをもたせる場面を充実させるために「ならったカード（既習事項で問題解決に活用できそうな内容）」「こまったカード（既習事項では解決できない内容）」（図1）を作成し、児童の様々な気づきを整理したり、本時の学習内容と既習事項との違いを児童に考えさせたりする取組を行った。このようなカードを用いることで、本時の学習に生かせる既習事項を学級全体で確認することができ、これまで算数が苦手な児童も最初から考えることをあきらめていた児童も意欲的に問題解決に取り組むようになった。

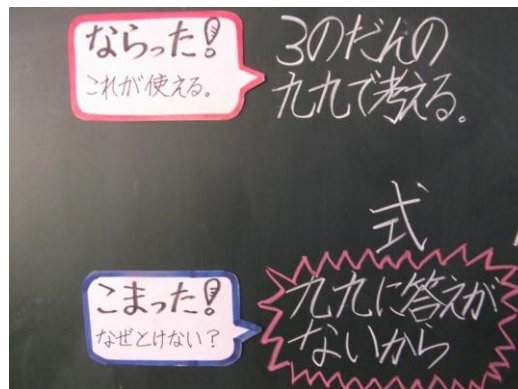


図1 「こまったカード」「ならったカード」

(2) 全国学力・学習状況調査の分析方法の工夫 ー 解答類型を活用してー

児童の具体的な課題を見出し、そこから学校独自の授業改善の視点を明確にするため、解答類型を用いて問題ごとに「全国調査」の分析を行った。その際に用いたワークシートを図2に示す。

まず、自校の結果と全国や県の結果とを比較し、正答率が大きく下回っている問題や無回答率の高い問題などを抽出し、グループごとに分析する問題を分担した。

次に、誤答の多かった解答類型をもとに、児童の誤答の原因を推測した。どの解答類型にも含まれない「上記以外の解答」の誤答率が最も高い問題については、『平成25年度 全国学力・学習状況調査 解説資料』や普段の児童の様子（ノートや成果物）を参考にした。

最後に、誤答の原因から、児童に身に付けさせたい力について考えた。例えば、算数B4(1)ワールドカップの前後で観客数が何倍になっているのかを考える問題を分析したグループは、ワールドカップ前後のそれぞれの1試合当たりの観客数を求めずに、試合数の異なる観客数の

の合計を比較していた解答類型が多かったことから、誤答の原因を「何を求めるのかを正確に把握していない」「条件を揃えて比べることが理解できていない」と推測した。そして、「何がわかれば答えに近づくか」「求めた答えが何を表しているのか」といった見通しをもつ力を身に付けさせることが必要であると考えた。最後に、各グループでの分析をもとに、児童に身に付けさせたい力や授業改善の方向性について全体で協議を行った（表4）。

表4 児童に身に付けさせたい力（算数科）

- ・見通しをもつ力（何がわかれば答えに近づくのか考える力）
- ・問題の意図をしっかりと読み取る力
- ・表や図、グラフを読み、理解する力
- ・必要な情報を選択する力
- ・図や表や式を使って自分の言葉で説明する力
- ・思考の流れがわかるように言葉を精選して書く力
- ・自分が立てた式が何を求めたものかを考えて説明する力
- ・相手の考えを理解し、論理的に説明する力

「取り組むべき具体的な内容を全教職員で共有することができ、明日からの授業に生かすことができる」等、「全国調査」の分析により、学校として取り組む方向性が具体的になったことがわかる。

表5 研修会後の感想

- ・今まで何となく子ども達の課題や自分達の指導の改善点を話し合っていたが、具体的なデータのもと問題を分析したり必要な力を考えたりできたことに大きな成果を感じた。
- ・指導方法の研修はしてきても、学力の実態をこんなに具体的につかみ、それに応じた指導方法を考えていくことは今まであまりできていなかったと思う。
- ・以前に本校の課題について話し合ったことが、学力調査の結果によってはっきりと具体的に示された感じがする。
- ・今まで、学力調査の結果を見ても、正答率の低い単元や内容をざっと見て「割り算が苦手」といった程度だったが、今回の研修で誤答からどういう力を付けさせなければならぬのかをじっくり考えられたのがよかった。
- ・取り組むべき具体的な内容を全教職員で共有することができ、明日からの授業に生かすことができる。

(3) 分析結果の校内授業研究への活用 ー 「授業評価シート」を用いてー

分析結果を校内授業研究に活用するため、「全国調査」の分析後の協議で出された授業改善の視点をもとに「授業評価シート」を作成した。「授業評価シート」は、研究授業における参観の視点を示したシートである。表6

班別協議用シート							
国語		算数		A		B	
問題番号							
正答率・無回答率							
正答 (%)	本校	兵庫県	全国	無回答 (%)	本校	兵庫県	全国
反応率が高い誤答の解答類型							
類型番号	内 容						反応率 (%)
予想される誤答の原因（箇条書き）							
子どもたちに必要な力							

図2 「全国調査」の分析に使用したワークシート

た答えが何を表しているのか」といった見通しをもつ力を身に付けさせることが必要であると考えた。最後に、各グループでの分析をもとに、児童に身に付けさせたい力や授業改善の方向性について全体で協議を行った（表4）。

研修会後の感想を表5に示す。これを見ると、「誤答からどういう力を付けさせなければならぬのかをじっくり考えられたのがよかった」

表6 分析後の協議で出された授業改善の視点

- ・見通しをもつ場を設定する
- ・考えたり説明したりする必要感を児童に感じさせる
- ・根拠に基づいて自分の考えを説明する機会を増やす（説明させるための支援を行う）
- ・ツール（数、式、図、表）を使って表現させる
- ・友達の意見について考える場をもつ

に示した授業改善の視点を再構成し、わかりやすい表現に修正した上で、その内容を「授業評価シート」の項目として示した（図3）。分析結果を反映させた「授業評価シート」を用いることで、研究授業の際には学校の実態に即した共通の視点で参観することができ、授業研究会では、自校の児童に見られる課題の改善に向けた具体的な協議ができるようにした。

また、このシートに示した内容を、授業の計画時に参考にすることで、普段の授業においても自校の児童に身に付けさせたい力を意識しながら授業を構成することができる考えた。以下に、授業改善の視点をもとに行われた授業実践を紹介する。この授業は、「授業評価シート」に示された内容のうち、「見通しをもたせる場面を設けること」「考えを説明させる場面を設けること」「考えを説明させるための手立てを行うこと」「考えを比べて表現させること」を意識して構成されている。

ア 授業改善の視点をもとにした授業実践（第1学年「たし算(2)」

(7) 概要

第1学年「たし算(2)」は、1位数同士の繰り上がりのある加法に関する内容である。本時は、 $8 + 3$ の求め方を数図ブロック等の操作を通して考え、繰り上がりのある1位数同士の加法について、10の補数を利用した計算方法を見出すことをねらいとしている。

(イ) 授業改善の視点を取り入れた授業の実際

a 見通しをもたせるための工夫

見通しをもたせるための工夫として、児童に教科書の挿絵を提示し、本時で学習することを考えさせた。表7に示すS1、S2のように、挿絵をもとに自分達で話を作りながら本時の学習内容を予想する意見や、S3、S4のように10のまとまりや繰り上がりの必要性につながる意見が出された。このように、挿絵をもとにした話合いを通して、「繰り上がりのある1位数同士の加法について考える」という本時のねらいを学級全体で共有することができた。

また、本時の学習である繰り上がりのある1位数同士の加法と既習事項（繰り上がりのない1位数同士の加法）を比較させた。「10より大きい数がある」「10のまとまりがある」等、気付いたことを話し合う中で、「10のまとまりを探して10より大きい答えになる計算をする」という本時の課題を児童から導き出した。

b 考えを説明させるための工夫

児童が新たに学習したことを活用し、相手にわかりやすく説明できるよう、見通しの場面で児童から出てきた言葉をキーワードとしてカードに整理した（図4）。このうち、「10のまとまり」と「□のともだち」の2

授業評価シート（算数）

観点	項目	気付いたところ
本時	1 本時のはじめに見通しをもたせる場を設けている。	良い点 改善点
	2 子ども達が自分の考えを説明する場を設けている。	良い点 改善点
	3 図や式などを用いて自分の考えを説明させている。	良い点 改善点
	4 子ども達が説明するための手立てを教師が準備している。	良い点 改善点
	5 友達の考えを自分の考えと比べて表現させる場を設けている。	良い点 改善点

図3 「授業評価シート」

表7 挿絵を用いて見通しをもたせる工夫

（挿絵の提示）

10台が入る駐車場に8台の車がとまっている。そこに、赤、緑、ピンクの3台の車が順に入ろうとしている。

T：今日はどんな勉強をするか絵を見て考えてね。

S1：たし算です。どうしてかという、車が1台、2台と入ってきているからです。

S2：3台入ってくると…

S3：（駐車場が埋まってしまうので）ピンクの車は入れないよ。

S4：車が8台とまっています。あと2台です。1台余ります。

つのキーワードを、考えの筋道を整理するために大切な言葉として決め、考えを説明する際に必ず用いることにした。また、自分の考えを説明させるための支援として、「□のたし算のしかたを言います」「だから、答えは□です」といった説明のはじめと終わりの言葉を提示した（図5）。これらの言葉を示したことで、説明する児童と説明される児童の両方が、何について考えるのかを意識しながら説明し合うことができた。

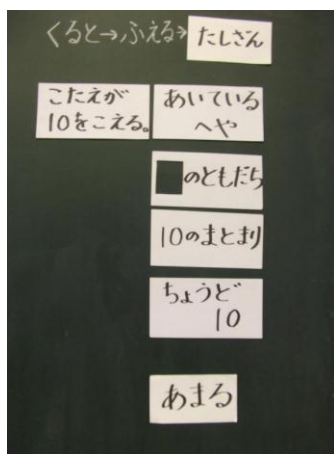


図4 児童から出された言葉を整理

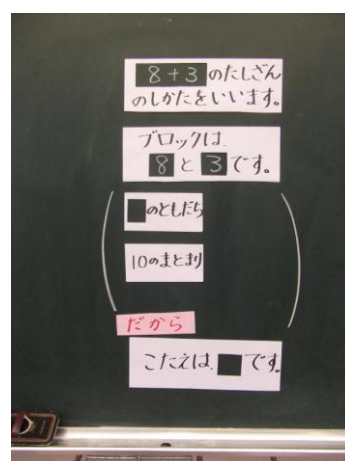


図5 考えを説明するための言葉を提示

c. 考えを深めさせるための工夫

自力解決後、 $8+3$ の計算のしかたを説明させたところ、大半の児童が図6の〈考え方1〉であった。これらの児童は答えを出すことに満足してしまい、〈考え方2〉のように10のまとまりを意識できていなかった。そこで、「この2つの考え方は一緒だった？どこか違う？」と尋ね、2つの考え方を比べさせた。自分の意見と友達の意見を比較させたことで、「2回に分けている」「10のまとまりを作っている」など、本時のねらいに迫ることができた。

また、練習問題を解く場面ではペア学習を取り入れた。その際、図7に示すポイントを提示し、自分の考えが相手に伝わるように説明することを意識させるようにした。ポイントに沿ってペアで説明し合う活動を取り入れることで、どの児童も10の補数を利用した計算方法について自分なりの言葉で説明することができ、本時のねらいの定着につなげることができた。

〈考え方1〉
数図ブロックを3つ一度に動かして 11 になる。

〈考え方2〉
数図ブロックを先に2つ足して 10 のまとまりを作り、さらに1つ加えるので 11 になる。

図6 $8+3$ の計算のしかた

- ①隣同士交代に説明する。
- ②ブロックを必ず指し示しながら「10のまとまり」を意識して説明する。
- ③聞く児童は審査員になり、②のポイントをチェックする。

図7 ペアで説明する際のポイント

(ウ) 授業の変容

授業者は、これまで「1年生には難しい」「時間がかかりすぎる」と、児童に解決の道筋を十分に考えさせず、教師が多くの説明を行っていた。今回の「全国調査」の分析を通して、目指す児童の姿をこれまで以上に具体的にイメージし、児童の気付きや表現を引き出したり互いに交流させたりする場面を充実させるようにした。その結果、教師の説明がなくても、これまでの学習内容を手がかりに大切なポイントをつかみ自ら問題を解決する児童や、相手意識をもちながら説明する児童の姿が多く見られるようになった。また、「昨日は『しかたを考えよう』やったから、今日は『覚えよう』やな」「もう覚えたから、『すらすらしよう』や」というように、児童自らが本時や次時の見通しをもち、毎時間のステップアップを楽しみながら学習に取り組む声が聞かれるようになった。

(4) 授業研究会を日常の授業改善につなげる工夫

授業研究会では、「協議用シート」（「授業評価シート」をA1サイズに拡大したもの）を用いた。その進め方を表8に示す。「協議用シート」を用い、付箋を色分けしたことで、

表8 授業研究会の進め方

①「授業評価シート」に記入した内容を付箋（良い点：赤色、課題とする点：青色）に転記する
②「協議用シート」に付箋を貼る
③付箋の多く貼られている項目を中心に協議する
④研究授業での気付きを一般化させる
⑤グループで協議した内容を発表する
⑥授業改善の視点を整理する
※②～④はグループごとに行う

それぞれの視点に対する良い点や課題が明確になり、協議の内容が焦点化された。

「協議用シート」には、「授業改善に向けて」という欄を設け、研究授業から明らかになった成果や課題を日常の授業に生かせる内容に一般化して記入するようにした（図8）。

このシートを用いた最初の授業研究会では、授業研究会での協議を自らの授業改善に結び付けることに難しさを感じる教員も見られた。しかし、回を重ねるごとに「私は、明日から既習事項を黒板に掲示し、児童に見通しをもたせられるようにしようと思う」等、それぞれから自らの授業改善を意識した意見が多く出されるようになった。また、研究授業での気付きを日常の授業に生かせる内容に一般化する過程を通して、「全国調査」の分析から明らかになった授業改善の視点が、さらに具体的になった（図9）。

表9は授業研究会後の感想である。「授業評価シート」や「協議用シート」を活用したことで、どの参加者も自身の授業改善をイメージしながら研究授業や授業研究会に臨めたことがわかる。

表9 「授業評価シート」を活用した授業研究会後の感想

- ・観点を明確にすることでめざす授業のイメージが1つになりやすく、授業者の手法や技術ではなく、学校としてどんな授業を作り上げていくかの話し合いになる。
- ・一般化する作業を通して授業参観した教師も自身の授業を考える機会となり、普段の授業にフィードバックできる。
- ・公開してもらった授業をもとに他でも生かせることを検証していけるのが大変勉強になった。
- ・自分に足りないことや学校として目指すことが明確になり、今後の授業に生かすことができると思う。

3 児童の思考力、判断力、表現力等の育成に向けて

ー全国学力・学習状況調査の分析に基づいた授業改善の充実を通してー

(1) 児童の実態に基づいた授業改善の視点の明確化

児童の思考力、判断力、表現力等の育成に向けた課題として、前述の通り、「全国調査」の結果が校内授業研究に十分に活用されていないことや、思考力、判断力、表現力等の育成を校内授業研究のテーマに掲げていても具体的な方向性の共通理解ができていないことを挙げた。その解決に向け、児童の実態に基づいた授業改善の視点の明確化が必要であると考え、具体的な方策として「思考力、判断力、表現力等や言語活動の充実についての共通理解」「『全国調査』の分析方法の工夫」を示し、その有効性を検証した。

その結果、思考力、判断力、表現力等を育むための言語活動の充実のさせ方について理解を図る研修が、授業改善に向けた方向性の共通理解につながる事が明らかになった。教員が言語活動の充実について具体的なイメージをもつことができていない場合には、授業展開例等を用いた演習が有効であることがわかった。

また、児童の具体的な課題を抽出するために「全国調査」の活用が有効であることが示された。その際、解答類型を用いて問題ごとの分析を行うことで、誤答の傾向やその原因を詳細に考えることができ、児童に身に付けさせなければならない力を具体的に意識できることが明らかになった。さらに、問題ごとに明らかになっ

協議用シート（算数）		（ ） 班	
項 目		気付いたところ	授業改善に向けて
1	本時のはじめに見通しをもたせる欄を設けている。	良い点 改善点	

図8 「協議用シート」（一部抜粋）

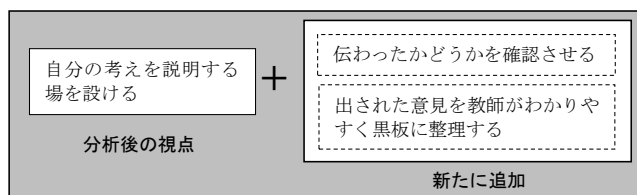


図9 授業改善の視点の具体化

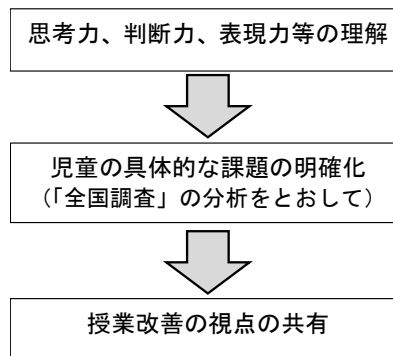


図10 授業改善の視点の明確化

た児童の課題を全体で話し合うことで、学年や領域に共通した課題を見出すことができ、学校全体で取り組むべき方向性を共有できることがわかった。

(2) 授業改善に向けた組織的な取組

授業改善に向けた組織的な取組について、研究授業や授業研究会が日々の授業改善に結びついていないことを課題に挙げ、その解決に向け、「分析結果の校内授業研究への活用」「授業研究会を日常の授業改善につなげる工夫」が有効であると考えた。

「全国調査」の分析から明らかになった授業改善の視点を「授業評価シート」として整理し、研究授業に用いることで、授業者を含む全ての参加者が授業改善の視点を意識しながら研究授業に参加できることが明らかになった。この学校独自の授業改善の視点は自校の児童が抱える課題の解決に直結しており、教員の日々の授業改善に対する意識が向上することもわかった。

研究授業の気づきを日常の授業に生かせる内容に一般化させる取組は、日々の授業改善のために校内授業研究を行うという意識の共有につながることがわかった。この取組を継続させることで、授業改善の視点をより児童の実態に適した内容に検証・改善できることが明らかになった。

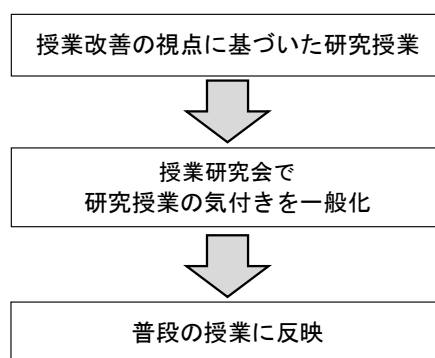


図 11 授業改善に向けた組織的な取組

おわりに

本研究では、各学校における「全国調査」の分析に基づいた授業改善として、「全国調査」の分析方法の工夫や分析結果の校内授業研究への活用等、思考力、判断力、表現力等の育成に向けた授業改善の方策を提案し、「協同研究」を通してその有効性を検証した。その結果、「全国調査」の効果的な活用が、児童の実態に基づいた授業改善の視点の明確化や授業改善に向けた組織的な取組を行う上で有効であることが明らかになった。

平成26年度は、当所で実施する「学力向上推進講座」や各学校を訪問して行う「授業力向上研修」において、本文末に添付した資料を活用し、「全国調査」を活用した授業改善の方策について研修を行う予定である。本研究及び当所の講座が、「全国調査」を活用した校内授業研究の充実のための一助となれば幸いである。

最後に、「協同研究」に御協力いただいた、たつの市立御津小学校の皆様に応じ、心よりの謝意を表す。

注)

- 1) 文部科学省「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の実施について（通知）」, 2012
- 2) 文部科学省「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果の取扱い及び調査結果等の活用について（通知）（平成25年8月）」, 2013
- 3) 前掲2) に掲載されている「教科に関する調査の結果の分析・検証」の内容を整理して示している。
- 4) 前掲2)
- 5) 前掲2) に掲載されている「学校における改善に向けた取組の推進」の内容を整理して示している。
- 6) 平成25年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査より抜粋
- 7) 兵庫県立教育研修所「児童の思考力、判断力、表現力等を育む授業の在り方に関する研究」『研究紀要第122集』, 2012

児童生徒の
思考力、判断力、
表現力等の
育成に向けて

全国学力・学習状況調査を 授業改善に活用しましょう

STEP1

思考力、判断力、表現力等や言語活動の充実について共通理解を図りましょう

○思考力、判断力、表現力等や言語活動について確認しましょう

思考力、判断力、表現力等とは…

「基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な力」といえます。

言語活動の充実とは…

- ・言語活動とは、話す・聞く、書く、読む等、言語による様々な活動です。
※言語活動には表現活動だけでなく、読んだり聞いたりしたことを理解することや理解したことをもとに思考したり判断したりすること含まれます。
- ・思考力、判断力、表現力等を育む観点から言語活動を充実させます。
- ・言語活動は国語科だけでなく全ての教科等で行います。

○言語活動の具体的な取り入れ方を考えましょう

◇言語活動は各教科のねらいを達成する手立てとして行います。

例) 小学校第5学年算数 「図形の面積」



台形の面積の求め方を説明しましょう。

これまで学習したことを使って説明
できましたね。



『まず』『次に』という言葉を使って
を使って説明できましたね。

まず、対角線を引きます。次に、
三角形の面積を求めます。・・・



←本時のねらいである数学的な
考え方に対する評価

←国語のねらいに対する評価

※国語以外の教科では、言語活動をする能力を育てることが主な目的ではありません。

◇言語活動を取り入れる際には、以下のことに留意します。

- ・本時のねらいと言語活動がどのように関係しているか
- ・教師が、児童のどのような姿を求めているのか
- ・児童に言語活動をさせるために、どのような手立てが必要か

※簡単な授業展開を示して、
どのように言語活動を取り
入れるのかを考える演習等
も効果的です。

思考力、判断力、表現力等や言語活動に対して、具体的なイメージをもちにくいという先生方もおられます。研修会では、具体的な授業への取り入れ方を紹介しながら思考力、判断力、表現力等や言語活動について説明しましょう。

具体例の提示には、『言語活動の充実に関する指導事例集』（文部科学省）が活用できます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/1300990.htm

STEP2

解答類型を活用して全国学力・学習状況調査の結果を分析しましょう

解答類型とは…

正答例、誤答例をもとに、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのものです。
解答類型は「全国学力・学習状況調査解説資料」（国立教育政策研究所の Web ページからダウンロード可能）に示されています。

＜準備する物（グループ教用意します）＞

分析用ワークシート（下図参照）、「全国学力・学習状況調査解説資料」

＜分析の手順＞

※②～④はグループ別に行います

①分析する問題を複数選択する

誤答の多い問題や、正答率が全国等の平均に比べて大きく下回っている問題、無回答率の高い問題を選択します。

②誤答の多い解答類型を確認する

ワークシートに誤答の多い解答類型を書き出します。

③誤答の原因を予想する

※「上記以外の解答」を示す解答タイプの誤答率が最も高い問題は、『平成25年度 全国学力・学習状況調査 解説資料』や普段の児童の様子（ノートや成果物）を参考にしながら誤答の原因を予想します。

④どのような力を身に付けさせる必要があるのかを考える

誤答の原因から、児童にどのような力を身に付けさせる必要があるのかを考えます。

⑤授業改善の視点を考える

グループで協議したことを発表しあい、授業改善の方向性を話し合います。

班別協議シート							
国語・算数		A・B		問題番号			
正答率・無回答率							
正答 (%)	本校	兵庫県	全国	無回答 (%)	本校	兵庫県	全国
反応率が高い誤答の解答類型							
類型番号	内 容						反応率 (%)
予想される誤答の原因（箇条書き）							
子どもたちに必要な力							

分析用ワークシート

分析の例

①分析する問題を選択する

算数B 4 (1) ワールドカップの前後で観客数は何倍になっているのかを考える問題の正答率が低い 等

②誤答の多い解答類型を確認する

ワールドカップ後の1試合当たりの観客数を求める式や言葉を書いている

③誤答の原因を予想する

- ・何を求めるのかを正確に把握していないのではないか
- ・条件を揃えて比べることが理解できていないのではないか

④どのような力を身に付けさせる必要があるのかを考える

「何がわかれば答えに近づくか」「求めた答えが何を表しているのか」といった見通しをもつ力

⑤授業改善の視点を考える

授業の最初に、何がわかるか、どうすれば解けそうかを考えさせる場をもつ 等

STEP3

授業改善の視点を示した「授業評価シート」を作成しましょう

「授業評価シート」とは…

授業を参観する際に用いる参観の視点を示したシートです。「授業評価シート」を活用することで、参観者が共通の視点で研究授業を見ることができ、授業研究会でも「授業評価シート」に示された視点を中心とした協議ができます。

＜作成の手順＞

①授業改善の視点を整理する

STEP 2⑤で明らかになった授業改善の視点の内容を整理します。

②授業評価シートを作成します

整理した授業改善の視点をもとに授業評価シートを作成します。

授業評価シート（算数）

観 点	項 目	気付いたところ
本 時	1 本時のはじめに見通しをもたせる場を設けている。	良い点 改善点
	2 子ども達が自分の考えを説明する場を設けている。	良い点 改善点
	3 図や式などを用いて自分の考えを説明させている。	良い点 改善点
	4 子ども達が説明するための手立てを教師が準備している。	良い点 改善点
	5 友達のことを自分の考えと比べて表現させる場を設けている。	良い点 改善点

「授業評価シート」の例

ここがポイント

「授業評価シート」の項目は、どの参観者が見てもわかる表現にしましょう。
（例）

＜授業改善の視点＞

- ・授業の最初に児童に必要性を感じさせる
- ・根拠に基づいて自分の考えを説明する機会を増やす
- ・ツール（数、式、図、表）を使って表現させる
- ・友達の意見について考えさせる場をもつ

表現がわかりにくい
→具体的な表現に

意味が似ている
→一つの項目に整理

授業改善の視点を「授業評価シート」の項目として整理

＜「授業評価シート」の項目＞

- ・見通しをもたせる場を設けている
- ・図などを用いて自分の考えを説明させている
- ・友達の考えを自分の考えを比べて表現させている

「考えさせる場をもつ→考えを比べて表現させる」というように、実際の授業場面を想定して内容を変更することもあります。

STEP4

「授業評価シート」を用いて研究授業や授業研究会を行いましょう

○研究授業に活用しましょう

研究授業では、あらかじめ、参観者一人一人に「授業評価シート」を配布し、研究授業で気付いたことを記入できるようにします。

※「授業評価シート」は、授業者が授業を計画する段階や事前に指導案の検討を行う際にも、授業改善の視点を確認するために用いることができます。

○授業研究会に活用しましょう

＜準備する物（グループ数用意します）＞

付箋（2色）、協議用シート、マジック

※協議用シートは、「授業評価シート」をA1サイズに拡大したものです。また、協議用シートには、研究授業での気づきを一般化するための「授業改善に向けて」の欄を設けておきます。（下図参照）。

＜進め方＞

※①～④はグループ（1グループ4～5人）ごとに行います

①「授業評価シート」に記入した内容を付箋に転記する

※あらかじめ、良い点は赤色、課題とする点は青色の付箋に記入するように決めておきます。

②協議用シートの各項目に付箋を貼る

③付箋の多く貼られている項目を中心に協議を行う

④研究授業での気づきを一般化させ、「授業改善に向けて」の欄に記入する

⑤グループで協議した内容を発表する

※研究授業を普段の授業に結び付けられるように、「授業改善に向けて」の欄に記入したことを中心に発表します。

⑥授業改善の視点を整理する

※全体協議で出てきた意見をもとに、「授業評価シート」の項目を見直すなど、授業改善の視点を整理します。

協議用シート（算数）（ ）班			
項目		気付いたところ	授業改善に向けて
1	本時のはじめに見通しをもたせる場を設けている。	良い点 改善点	→
2	子どもたちが自分の考えを説明する	良い点 改善点	→

協議用シートの例（一部抜粋）

